2009～2010年度　国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー
ロータリーの未来は
あなたの手の中に

RI第2510地区
# 留萌ロータリークラブ
# 会　報
2009►2010　WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ
親睦でクラブの活力と結束を、
そして奉仕は足もとから

会長／対馬健一　幹事／中出敏彦

## プログラム

●本日
創立記念夜間例会

ご夫人誕生日
２月23日　遠藤　正子

●次週予定
続・我が生い立ち②
平井会員・深瀬会員

No. 2407
第30回　２月17日

出席報告

前例会
会員総数……44名
出免会員……４名
出免出席……２名
出席会員……31名
出席率……73.81%

前々会
第27回　１月27日
出席会員……34名
メイクアップ……３名
修正出席率……83.72%

例会／毎週水曜　12:15～13:15　留萌産業会館2F

## 会長報告

○　本日臨時理事会を開催し、平井誠治会員から出されていた出席免除届けを承認いたしました。

○　次年度地区世界社会奉仕委員会委員として西谷英樹会員をクラブとして推薦することを決め西谷会員の了解をいただきました。

## 幹事報告

1）本日、ロータリー手帳の申し込みを締め切ります。希望者は例会終了まで申し込み下さい。

ゲスト
北海道議会議員　石塚　正寛様

## 委員会報告

親睦活動委員会　渡邊副委員長

次週例会は創立49周年です。場所は富丸、６時30分点鐘です。出欠の確認をしていますのでよろしくお願いします。会費は1,000円です。

## ３分間情報

会員研修委員　越野副委員長

「留萌ロータリークラブの歩み」

留萌ＲＣは昭和36年２月１日旭川西ＲＣをスポンサークラブとして、チャーターメンバー26名にて設立総会が開かれました。同年４月25日に正式に国際ロータリーに加盟承認され、日本では416番目のクラブとして発足しました。

初代会長は小沢久吉氏、幹事は東典俊氏で、

そのまま７月１日より第１代目の留萌ＲＣの会長、幹事を務められました。昭和48年５月に韓国論山ＲＣと姉妹血縁を結び、共同奉仕事業として愛育園（孤児院）を建設し、それ以後毎年交互に訪問して現在に至っています。留萌ＲＣがスポンサークラブとして昭和48年に留萌ＲＡＣ、昭和49年に小平ＲＣ、昭和56年に羽幌ＲＣと設立させ、先輩ロータリアンの活動はすさましいものでした。この様にロータリーに対する情熱、奉仕の積み重ねが良き伝統へと培われていき、地区内でも模範クラブと高く認められるようになった。このことが会員の増強にもつながり、一番多い時には117名の会員在籍の時もありました。昭和55年頃は地区で出席競争を奨励してきたため、出席率100％の年が５～６年続いた事もあり、そのために欠席出来ず、小平ＲＣには７～８名のメイクアップがあったこともありました。現在は出席競争を止めたので、それがクラブの活性化が欠けてきているように思います。

## ニコニコBOX

- 母の葬儀の際にはお手伝い、ご焼香いただきありがとうございました。ロータリーの絆の強さに感謝いたします。　**高橋会員**
- 先週メインマイクのコードの接続を忘れてしまいました。大変失礼しました　**久木会員**

| | |
|---|---|
| 前　回 | 609,000円 |
| 今　回 | 11,000円 |
| 累　計 | 620,000円 |

## プログラム

**「これからの北海道」**

北海道議会議員　**石塚　正寛** 様

**１　留萌港の利活用について**

北海道では平成20年度から新総合計画に基づく施策をスタート。留萌管内の重点政策として「留萌港の活用」。

平成21年度から始まった事業を２年間かけて留萌港の利活用に関する研究検討を行う。

**〈去年の暮れにその中間報告が公表〉**

最初に船会社や製紙会社などと個別に懇談を実施した結果、留萌港に対する評価は

① 留萌からは出荷する貨物はあるかも知れないが帰り荷がない。

③ 札幌に近いことが航路選定の大きな要素となる。留萌・旭川周辺は経済規模が小さい。

④ 苫小牧港も荷が減少して困っている中、留萌港で確保できるか。

⑤ 日本海ルートは太平洋側に比べて荷物が少ないことや、冬期の天候障害など船会社として魅力的ではない。

各会社との懇談を行った限りでは留萌港に対する評価は非常に厳しい回答ばかり。調査の結果から、現状において留萌港の取扱量の増加を図ることは困難。しかし、小麦については、港湾機能を充実させることにより留萌港活用の可能性があるとの報告。

○小麦に関する現状と課題を整理

１　留萌港の利用実績と生産量

- 留萌港から輸送している小麦は年間３万トン程度。
- 留萌・上川・空知北部で生産される小麦の量は合計で約５万８千トン。

２　輸送形態と出荷先

- 留萌港に集積し、量がまとまった段階で出荷。

- 1,500トン級のばら積み専用船で川崎港、千葉港などへ出荷。

3　課題や対応方向

- 倉庫やばら積み設備の老朽化。
- 倉庫の容量が大きければ、他の港に流れていた小麦を留萌港から出荷できる。

留萌周辺で生産される小麦の約半分はほかの港から出荷。その要因としては、留萌にある小麦倉庫が老朽化と保管のための容量が足りないこと。

○留萌港に小麦倉庫を建設した場合の試算。

1　小麦輸送船（1,500トン級）２隻分の小麦を保管できる容量を確保するため、600トン小麦サイロ（倉庫）を６本建設する。―北岸壁のセメントサイロで千トン程度

2　年間取扱い量は５万５千トン。（留萌周辺では５万８千トンを生産）

3　建設費は４億円。国土交通省の補助制度を利用。（道の融資制度活用も可能）

4　借入期間は20年。金利は３％。詳細に亘る試算結果では、営業１年目から黒字が計上できるとの結論。

○課題としては

①　自己資金をどのように調達するか。

②　事業主体、つまり誰が経営を行うか。

## 2　留萌市での道営住宅の建設について

道営住宅の戸数　　339戸（６団地）

市営住宅の戸数　　約1300戸

①　北海道としての考え方

- 特定目的の道営住宅の建設を推進したい

【特定目的道営住宅とは】

- 子育て支援道営住宅―深川、根室
- 高齢者向け道営住宅―芦別、紋別

＊市営住宅ではＨ６の「リラ」

- 道営住宅の数は増やしたくない
- 古い道営住宅の管理を市に委ね、その分を道営住宅建設

②　道内での実施例

ＪＲ深川駅裏にある５階建ての大きな建物は、「子育て支援」という特定の目的で建てられた道営住宅。

北海道が子育て世帯向け（15世帯分）と一般向け（45世帯分）、合計60世帯分の道営住宅や集会所などを建設する。

一方深川市は、子育てをしている親子が交流の場として自由に使えるよう集会所を開放し、併せて「子育てアドバイザー」を配置して親子に対する相談、援助を行うなど、集会所を使って子育て支援のサービスを実施。この部分が深川市の負担。

【留萌市でこのような道営住宅を希望した場合】

1　現在市内にある「道営住宅」の一部を「市営住宅」として留萌市の管理に変更する。

2　集会所を設置した場合、留萌市が「子育てアドバイザー」を配置する。

などいくつかクリアしなければならない課題がある。

③　留萌市の現状

留萌は子育て支援の施策は一定程度充実。むしろ、シルバー向けの施策が不十分、との認識。

④　建設の条件と留萌市の負担

緊急通報システムの整備。ライフサポートアドバイザー（ＬＳＡ）―常駐または通勤。できればマチの中心部での建設が望まれる。

（先週からの続き）

市立病院の運営も軌道に乗れば市の財政も相当安定してきますので、私としてはこの街の戦略としてこの街の資源資材を大切にする事と、もう一つは子供たちをしっかり育てる人材育成という部分にも戦略を持って当たらなければと思っております。地域の環境を守り、この街を訪れる人々にある意味喜びを与えるそういう街づくりを市民全体で取り組んでいかなければなりません。私としては全国から情報を集めなが

ら、さらにはここから生産されるものに付加価値を付けて発信できる体制。この留萌港が出来て百年、その当時はロシア沿岸、そして中国との交流に対し、強い思いがあったのだと思います。ウラジオストック、ハバロフスク、友好都市を結んでいるウランウデ市等もどんどん大きく経済が成長していると聞きます。留萌市はどんどん萎縮して2030年には１万７千人位になるという数字が出ていますが、何とかこの街がコンパクトな街で、人口を増やすことは極めて難しいかもしれませんが、子供達を育てる環境、この街で子供達が働く想い、子供達が強く生きて行く想い、そして市民が地球の環境や自然を大切にする想い、そういうものをしっかり組み立てながら、ここで企業を起こしている方々には新たなビジネスチャンスに向かって、果敢に若い世代の人々がチャレンジ精神旺盛に新たな雇用を創出するように、自信を持っていただく為にも行政としてできる部分はしっかりと支援していかなければならないと思っております。企業支援というのはある意味難しい所がございます。私もこの４年間で企業誘致の部分で札幌や東京でも何度かお話をさせて頂きました。そこでやはり地元の企業を育てていく事が大切であるとつくづく感じました。企業誘致は頭の中にありますが、それ以上にこの留萌の港をいかし、地元企業をしっかり支え、地場で雇用生むためには、水産加工業を始め建設業の新たな取り組みなどを、行政としてしっかり支援していき、雇用の確保だけはしっかりとしていきたいと思います。

来年になるとサハリンから石狩湾に、３万トンの液化天然ガスを積んだ船が通る事になります。13万トンの船ですから当然留萌港には入れませんが、それだけエネルギーの状況が変わるということです。石狩のプラントは札幌への供給との事ですので、今のところ発電の計画はございません。ただ、原子力発電では３号機が稼動していますが、稼動の問題等、また化石燃料での火力発電がどこまで発電の需要に耐えれるか、異常気象などで水力発電の発電状況が変化するので、やはり需要に耐えれるかが心配になります。私としては液化天然ガスの発電（小さなプラント）で留萌港を含めて出来れば、道北への電力供給と、旭川への天然ガスの供給も夢ではないと思います。

なかなか夢を語る事が出来ない現状ではありますが、小さな積み重ねをしております。今まで行政で行ってきた物をＮＰＯ法人などで知恵と工夫を持って運営していただいております。市民の皆さんのサービスだけは満足していただいているのかなあと思っております。留萌の先人が培ってきたものを今の子供たちに伝え、理解していただいて、そして子供たちの笑顔、お年寄りが安心して暮らせるそういう街づくりに向けてこれからの留萌を私なりにしっかり運営していきたいと思っております。

本日はこのような機会を与えていただきありがとうございました。